

3月22日・第50回定期総会の成功を!!

みんなの力で 全員参加の大町労山を造りましょう

すでにご案内のように22日午後7時から、大町労山第50回総会です。年に1回の総会なので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さい。

会費集め等の関係もあるので、お仕事等の支障がない限り、早めにお集まり下さい。やむを得ず欠席される方は、谷口会長にご連絡下さい。

なお、総会で決定されれば、当日会費および遭対特別基金を集めさせていただきますので、ご用意をお願いします。できればおつりのないようお願いします。

会費は、決定されれば月800円(家族会員は半額)を、できれば半年または1年分まとめてお願いします。遭対基金は1口1000円です。

おおいに議論しましょう

大町労山、2015年度の取り組みと16年度の課題

2015年度を振り返って、課題としたことは大筋において達成できました。

- ① 会員拡大については、鍬の峰・京ヶ倉の二つの公募登山をきっかけに4名の入会者がありました。
しかし、
- ② リレー縦走などの創立50周年事業については、2回の縦走を実施したものの、まだスタートに着いたばかりであり、2016年度中に完了する重点課題の一つです。
- ③ 機関紙は11回発行(11・12月は合併号)され、会員の情報共有と多くの会員による投稿で内容が豊かになった。『ごんぞ』は年内には発行できなかったが、本総会に間に合わせて発行できました。
- ③ 春の鍬の峰(9人)、秋の京ヶ倉(9人)の二つの公募登山には、一般から計18人が参加し、参加者に喜ばれました。
- ④ 会山行も個人山行も海外山行を含めて活発に行われ、事故もなく、会全体では年

間100回を超す山行が引き続き行われました。

- ⑤ 初めて「山の歌を歌う会」が7月に楽しく行われましたが、土曜例会はできませんでした。また、例会の出席率は決して高くなく、拡大役員会と併せて引き続き努力が求められています。
- ⑥ メーリングリストはまだ不完全ですが、事務局からの一斉送信などで、必要な情報は可能な限り発信できるようになりました。専門部活動については役員会で十分議論されているとはいえ、今後いっそうの具体化が求められています。

山岳会の活性化とは何でしょうか。

さて、現在の大町労山はどうでしょうか。総会で大いに議論をしましょう。

「山行が活発に行われている」「例会参加者が多い」「入会者が多い」「例会が楽しい」「いろんなことが学べる」「機関紙がおもしろい」「ホームページの更新が早い」等々、活力ある山岳会にするためには、いずれも必要な要素です。さらに、バランスのとれた年齢構成や登山技術の継承、里山から海外までのあらゆる山行スタイルに対応できる組織であることが望ましいでしょう。しかし、そんなパーフェクトな山岳会はそう易々とできるわけではありません。

要は、すべての会員が自分の山行、行きたい山に行くだけでなく、常にあるべき山岳会像を追求し、上記のような理想を目指しているかどうかであり、組織としての体制が確立しているかどうか、そのための議論ができていないかではないでしょうか。居住地が広がり、平均年齢も高まって、組織としての困難さがあることも否定できませんが、会員みんなの力で大町労山の組織を活性化させましょう。

そのためにも引き続き50周年記念リレー縦走を成功させ、あらたに「大町労山登山教室」にも取り組む提案もされます。

ニューフェースさん登場 塩原琴子さん

日本一と言っても決して過言ではない山に恵まれた環境で育ち、にもかかわらず、「山に登らないなんて、なんてもったいないのだろう」という生来の貧乏性のため、山登りをする今に至ります。夏山10年、冬山3年くらい登ってきました。北アルプスや八ヶ岳など県内の山が中心です。

今後登りたい山は、山だけに山ほど。

なかでも、黒部五郎岳・薬師岳や北岳・間ノ岳・塩見岳、また北信五岳は当面の目標です。

ふつつかものですが、どうぞよろしく願いいたします。

雪上訓練に参加して

3月5日

報告者；塩原琴子 参加者；鈴木 古畑(文) 塩原

平成28年3月5日(土)地蔵の頭周辺にて、雪上訓練。参加者は、鈴木さん、古畑さんと塩原、3名。天気はくもりで、時々青空も見える、風のない穏やかな日。

8時白馬五竜スキー場駐車場に集合し、テレキャビンで標高を稼ぎ、地蔵の頭付近まで歩いて登る。

8時半ごろ、地蔵の頭周辺南側斜面をつかって雪訓開始。

まず、フラットフットイングとキックステップをツボ足で行い、冬靴だけで雪面を歩く練習をする。ひし形に歩いて、何度も練習。だんだんとコツをつかめてきたのではないかと。下りの時に、つま先が水平でなく、少し上がってしまう。以前も同行者に指摘されたことがあったので、今後もつま先のあがりすぎには注意しなければ。

ピッケルの使い方と同時に練習する。傾斜がきついときは、ピックを雪面に刺すダガー・ポジションも有効とのこと。新たな技術を習得できるのは、とてもうれしい。

次に、アイゼンをつけての歩行練習。フラットフットイングを基本に、すべての爪が雪面にかかるよう、ひし形歩きで繰り返し練習する。

11時、お昼を挟んで、12時前に再開。滑落停止訓練を行う。下りの歩行中に仰向けで足から滑っての停止や前転しての停止、仰向けで頭から滑っての停止など行う。雪が軟らかく、なかなかピックがかかってくれなかったが、比較的硬いところでは停止することができた。

前転からの停止は、まず前転をめっきりしていなかったもので、はじめは少々怖かった。何度かやるうちにおおよその感覚は掴めたのではないと思う。また、頭からの滑落は、頭から滑るというのは、ああも怖いものかと知れたのもよい経験だった。滑っている時は、上下左右の方向感覚を失うものだと学べた。登って滑るをひたすら繰り返していたので、足と腕両方に疲労が蓄積。

ちょっと休憩をはさんで、ロープを張って登下降の練習。120cmスリングで簡易ハーネスをつくり、安全環付カラビナをかける。60cmスリングをクレムヘイストノットでロープにセットし、簡易ハーネスのカラビナに連結させる。クレムヘイストノットを上をスライドさせながら登り、滑落してテンションがかかってもロックされることを確認する。同様にムンターヒッチで下降も練習する。このようなスリング、カ



ラビナによる安全確保は、普段の登山の中で今後も実践していきたい。

続いて、急斜面をアイゼンで登る練習。前爪4本くらいとピッケルを使って、足を水平に置き、3点支持を意識して登る。慣れないので緊張したが、慣れるまで練習あるのみ。ここまでで、14時くらい。

さらに続いて、わかんを着用。雪が締まっているので、わかんはあまり威力を発揮しませんでした。急斜面では、キックステップも練習する。最後に、ラッセルのやり方を練習する。

以上で15時前となり下山となる。

盛りだくさんな内容で、計画通り順調に訓練できた。初めて触れる知識もあったので勉強になったし、山行でなく、訓練の機会というのはあまりないので、非常に有意義な時間だった。

鈴木さんありがとうございました。古畑さんお疲れさまでした。



丹沢縦走

2016.2.19~21

谷口、勝野、他3名



19日；松川自宅(12:30)→青根登山口(17:00)→ヤビツ峠駐車場(19:00頃) テン泊

20日；ヤビツ峠駐車場(6:15)→菩提峠手前の登山口(6:50)→ニノ塔(8:15)→三ノ塔(8:30)→烏尾山(9:05)→新大日(10:10)(10:30)→塔ノ岳(11:25)(12:00)→丹沢山(13:05) みやま山荘泊

21日；丹沢山(6:30)→棚沢ノ頭(7:45)→蛭ヶ岳(8:40)(9:05)→姫次(10:30)(10:45)→青根登山口(12:30)→途中温泉と食事→松川(21:20)

「丹沢に行きませんか」と佐久のAさんから声がかかる。丹沢は蛭が出るから寒いうちが良いとか…。計画書を送ってもらい便乗する。

車2台を使って縦走する計画なので19日は下山予定の青根登山口に谷口の車をデポし最寄りのキャンプ場に泊まる予定だったが、近くにスーパーが無く買出しが出来ないので翌日予定していたヤビツ峠登山口まで行く事とし、途中のスーパーで食糧を調達する。ヤビツ峠の駐車場でテント泊。

20日；駐車場から30分程北に車道を歩き登山道に入る。最初は急だが階段で整備された登山道を1時間ほど歩くと後ろに相模湾と江の島が朝焼けできれいに見える。今日から天気が下り坂で大荒れになるとの予報があったので空を眺めながら気持ちだけは急いでいるが……。ニノ塔の手前あたりから富士山がきれいに見えてくる。三ノ塔、烏尾山、行者ヶ岳とアップダウンを繰り返し新大日に着く。この辺りから少し強めの雨が降り出し雨具を着る。幸い無風なので寒さは感じない。約1時間弱で塔ノ岳に着き、尊仏(そんぶつ)山荘のカップラーメンで昼食とする。ここで食べる温かいカップラーメンは350円だったがおいしかった。

雨の降る中1時間で丹沢山に到着し、みやま山荘で宿泊の手続きを取り早速ビールでの乾杯が始まる。今日は平日で悪天候の予報だった為か、宿泊は我々だけなので遠慮なく楽しませてもらえた。消灯後は各所にランプがありヘッドランプは必要なかった。食事もおいしくいい宿でした。

21日；夜明け前には天気が回復し窓からは夜景がきれいに見え、出発時には正面に雲海と富士山が見える。左手に富士山を見ながらの稜線歩きは気持ちがよく、雨の昨日と違って写真を撮るために時々立ち止まるため、予定の時間より40分遅れで蛭ヶ岳に着く。標高1,673mは丹沢山塊で、さらには神奈川県最高峰だとか…。勉強不足でした。ゆっくり休み下山となります。

下りの登山道は急な斜面に長い木道の階段が続きますが程よい高さできつく感じませんでした。姫次、八丁坂の頭を経由し、予定より1時間遅れで青根登山口に到着しました。少しぬかるんだ所もありましたがよく整備された登山道で富士山の展望も良く、泊まった山荘も感じが良くて快適な山行でした。

八方尾根、生と死の分岐点…遭難一歩手前からの生還

2月20・21日

鈴木 均

きわめてショッキングなタイトルだが、少なくとも私にとってはオーバーではなく、実感を表現したものだ。これまでの自分の山行では何度か危機を越えたり、ビバ

ークをしたことも1回ではないが、今回は最大のピンチだったように思う。

☆

★

☆

2月20日明け方5時過ぎに、大阪からNさんとFさんが軽自動車から白馬の我が家に到着して仮眠。天気予報はかなり良くなかったので、同日午前「どうしますか」とNさんに電話したら、「行きます」とのことだった。私自身は、この天気でどうかかと、あまり乗り気ではなかったが、今回の山行には理由があって、「やめた方がいいのではないかと強く言えなかった。

理由というのは、来年大阪労山創立50周年にあたり、記念事業の一つとして海外登山、とりわけヒマラヤの未踏峰に挑戦するというので、数か月前にNさんから、「こんなことを考えているが、どうか」と電話をもらい、いいですよと軽く返事をしたことだ。

Nさんは、大阪労山の教育連対部長で、海外登山の経験も豊富である。年末に全国連盟に行って何人かの人からヒマラヤや海外の情報入手し、私が1月に帰阪したときに、初めての打ち合わせを行い、ヒマラヤの地図やパワーポイントで概要的な説明をされた。その上に立って、私が白馬にいるから八方尾根で第1回の訓練をやりましようという提案されたのである。

このように、ことはとんとんと進み、後に引けなくなって、とにかく最初の雪上訓練をすることになったというわけである。モンブランなど、ヨーロッパアルプスやアジアの海外登山の経験はあるが、1ヶ月以上にわたる、しかも6000m超す未踏峰にアタックする体力と金力にいまも不安はあるのだが、乗りかかった船である。

ただ、今回の八方尾根雪訓は、昨年2月と3月、二回とも強風に苦しめられて、それ以前にも何度も八方池まですら登ることを断念した苦い経験もあり、天気予報からして、個人の判断では計画は断念か延期した方が良く思っていた。

雪があれば旧ハイランドスキー場の上部でも雪上訓練できると提案し、近くまで行ったが、高度は低い上にこの冬の少ない雪で、とても訓練できる状況ではなく、八方尾根の下の樺周辺でテントか雪洞泊で行ってみようということになった。登攀訓練するわけではないからハーネスは家においてカラビナやスリング類などの冬山装備をザックに詰めた。

八方ゴンドラは長い列で多少の待ち時間は



あったが、リフト2本を乗り継いで問題なく八方池山荘に着いた(Nさんの記録では、11:20 マイナス 5°C、弱風)。八方池山荘付近は風は強くはなかったが、いつもならバックカントリースキーやボードをする人をけっこう見るのだが、この日は少なく、稜線の様子を見ているようだった。

ツボ足でゆっくりと登り、迷いそうな所へ赤布を立てる。八方池を越え、午後1時頃だったのだろうか、予定通り「下の樺」へ着く。古い避難小屋跡の石積みが少し露出しており、その中にテントを張っても夕方から予想される強風に耐えられるか疑問だったので、雪洞を掘ることにする。ところが、例年より雪が少なく、吹きだまりもない。

簡単に雪洞はできそうにはなかった。大岩の周りに雪が着いて固まっているのか、偶然雪庇のような雪の固まりがあった。とにかく3人で掘ってみる。どんどん掘ったが岩はない。「これはいける!」と、交替で掘っていけば、すぐに地面の岩に当たり、天井も薄くなっていった。これ以上掘れないので、横に拡張。3人がかろうじて横になれるが、高さが低い。腰を下ろして座るのがやっとで、カップを握ってお茶を飲むのは難しい。病院のベッドに寝かされたような体勢で、首を傾げて飲み食いする。(Nさんのメモでは、13:30 下の樺にて雪洞作成開始 15:00 完成、90分)

15:30 頃からラッセル訓練を始める。30分ばかりやって雪洞に潜り、窮屈な体勢ながら、Fさんが用意してくれた鍋をいただく。「こんなところで過ごすのは、まるでバカですよ」と冗談を言いながら、焼酎をちびりちびり。外の風は次第に強くなり、入り口をふさいだツエルトの隙間から雪が入ってくる。閉じ込められないように時々点検する。

翌21日6時起床。マイナス10°Cで暴風、地吹雪。視界なし。雪洞入り口の雪をスコップで下に落とし小用を足す。不思議なことに、この頃は(というより、このあたりは)立ってられないような強風ではなかった。

ラーメンを食べてから雪訓再開。デッドマンやスノーバーを支点にした強度テストとスタンディングアックスビレイをやって9時半頃終わる。ユマール訓練はできず、NさんとFさんは、再びワカンでラッセル訓練するが、風が強くなってきた感じがしたので、私は「そろそろ下りませんか」とNさんに下山を促した。

急いでザックにすべての荷物を詰め込んで、下山開始。完全なホワイトアウトで、足下は見えないが、一面の雪とその上は北からの暴風雪が体を叩く。昨夜からの2~30センチの新雪をワカンで進む。先頭は若いFさんで、視力の弱い私は後のNさんに挟まれて進む。烈風が重いザックにぶつかり体がよろける。2回ほど倒れる。10mも離れればFさんのウェアが見えなくなるので、ゆっくり行くようお願いする。

Nさんのメモ「10:20 下山開始。八方池稜線で暴風にやられ遅々として進めず」。起き上がっては進もうとするが、なかなか思うようにはいかない。転ばないようにN

さんが後からザックをもってくれた。それがまたブレーキのようになって進みづらい。少し寒くなってきた。「このままではやばい!、低体温症になったら大変だ」と、下山開始してまもなく、中間着を2枚重ね着した(これをしていなかったら、下山の時間に相当かかっているのだから、低体温症になった可能性がある)。メガネに着いた雪が凍ってきた。(ゴーグルをしていたはずだが、途中で厳冬期用ウールの帽子とともに、いつのまにか飛んでしまっていたと思われる。しかし、飛ばされたという自覚はない)

凍ったメガネの雪を何回か取るがらちがあかない。Nさんに「雪洞に戻りませんか」と言ったが、「いや、行こう」と。今度は、まぶたに着いた雪が凍って視界を遮る。八方尾根は広いので、滑落することはまずないが、方角を間違えないことだ。幸いFさんの足取りはしっかりしていて、いくつかのケルンと赤布の進行方向をほぼ間違えないで、後のNさんの指示を受けながら進んだ。しばらく私のザックをNさんが引きずりながら下山するが限界に来た。八方池の上部ケルンの大岩に長いスリングでザックを固定した。Nさんのメモ「11:20 八方池稜線に鈴木さんのザックを残置し下山続行」。

空身になれば、歩行は楽になった。この間の暴風雪は表現できない。体感的には20~30m/s。通常はときどき風の息があるのだが、全く間断なく吹き続ける。突風には耐風姿勢。八方池山荘近くまで来ても止まない。とにかく吹き続けた。

なんとか八方池山荘にたどり着いた。予想通り二つのリフトは運行していない。ひょっとしたらゴンドラもか?と覚悟したが、山荘で聞いたら、さきほどゴンドラが動き出したとのことでほっとした。Nさんのメモ「13:30 八方池山荘着。グラートリフト、アルペンリフトとも停止なので歩いてゴンドラまで歩いて下山。14:30 ゴンドラ到着」。通常なら1時間程度の下山を3時間以上かかったことになる。

やっとのこと危機を脱して、兎平まで下山。ゴンドラに乗り、無事八方までおることができた。一時はどうなるか、途中で、雪が少ない中、新しい雪洞を掘ることは不可能だ、テントも飛ばされかねない、こんなところで死んでたまるかと思いながらの下山だった。



その間、冷静だったのだろうか。必ずしも冷静だったとはいえない気がしている。なぜなら、ウール帽子、ゴーグル、手袋片手、テントシューズのケースがなくなっているが、どこでどのように風が飛ばされたのかわからないからだ。ザックの外に締めていたサ

一マレストのマットは、ベルトが凍って締めが弱いことはわかっていたが、ケースのひもをカラビナにかけていなかったために N さんが引きずっていたときに飛んでいたらしい。

だから、頭の中はほとんどからっぽで、冷静でもない、慌てているでもない、そんな感じだったのでないか、要するに思考能力は低下していたと思う。

N さん、F さんは今晚中に大阪に帰らなければならないので、温泉にも入らず車に乗った。

今回、まさに「遭難一歩手前からの生還」だったが、ほんとうに遭難していたら「典型的な気象遭難」といわれただろう。そして遭難者は「低体温症」になっていたと思う。

①ホワイトアウト、視界 10m 程度か。②暴風雪、風速は 20~30m?、新雪に足を取られ、強風に体を支えることができない、③私は 3 人の中で体が一番小さく、年齢が一番高い、その上眼が悪い、それらが原因で遭難していても不思議ではなかった。

土曜の夜から荒れることは予想していた。それでも行くのかなあと前日 N さんに電話したら、「行きます」とのこと。おそらく、多少の風雪は覚悟していただろうが、ピークをめざすのではなく、トレーニングだからと行ったが、私も N さんとは初めての山行で、二日前までは気分が高揚していたが、前夜はやや気が重かった。

帰阪後、N さんから「強風を見抜けなくてすみません」とのメールを頂いた。おそらくそこまで予想していなかったのだろう。私自身も、雪の八方尾根には何度も行っているが、今回ほどのことはなかった。今回も登りで暴風雪なら当然行かなかっただろうが、行った以上下りなければならぬ。もう一晩待機するのがベターだが、N さんはそれを選択しなかった。

下山後、一人で八方温泉に入ったが、両手指とくに右手人差し指と左手中指がかなりひどい凍傷になり、あまりの痛さで湯に浸けられなかった。2 本の指先は赤黒くなり、数年前の年末、八ヶ岳を縦走したときの凍傷より重かった。これは完全に自分の管理責任だ。(両頬の目の下と右耳も凍傷になっていた)

山行やスキーでは、常にスペアメガネを持って行くが、今回メガネを外して歩行したのは初めてだった。ゴーグルがなぜ、どのように飛んだのか、これも要研究だ。

翌々日の火曜日、アルバイトが休みで天気もまずまずだったので、念のため赤布を立てなが



ら、一人で登って八方池上部にデポしたザックを回収してきた。この日は、バックカントリーのツアーもいくつかのパーティが八方池山荘前からスタートしようとしていた。

蛇足

新聞によると、下山約 1 週間後の土曜日、我々が雪洞泊した場所とほぼ同じと思われるあたり(「下の樺付近」との報道)で、単独の登山者がルートがわからず下山できないと救助要請した。登山者は日帰り予定だったようだが、翌日へりで無事救助された。どのような装備だったかわからないが、我々が掘った雪洞は数日で崩壊するとは思われないので、ひょっとしたらそこで一晩明かしたのではないかと推測する。だとすれば、われわれは、間接的に人助けをしたことになるのではないかと、勝手に思ったりするのだ。

大町労山創立50周年・「山の日」制定記念

大町労山登山教室 ご案内

「岩山には登ってみたいが不安だ」
「雪(冬)山にも行きたいが一人では自信がない」
「仲間がほしい」「もう少し登山技術を上げたい」
「ロープワークを覚えたい」等、
登山のステップアップをしたい人は、ぜひご参加を。



1、参加条件

- ①松本から小谷までの間に在住
- ②45歳くらいまでの健康な男女
- ③山岳保険に加入していること(応相談)

2、募集人員 5名以内

3、参加費用 一日2000円程度

内容により多少前後します(小屋代・交通費等は別途実費)

※大町労山への入会を入会条件としないが、入会する場合は半額、入会後は無料

4、内容:雪山、雪上訓練・雪上泊

クライミング入門、無雪期縦走(日帰り・小屋・テント)

※岩山や雪山を安全に行けることを第一目的とし、ある程度のバリエーションルートや冬の八ヶ岳、残雪の北アルプスなどに行けることをめざします。

※座学は、必要に応じ、また要望に応じて、日程調整しながら行います。

5、装備:基本的に個人で用意してください。(レンタルあり)

6、当面の予定(月1回程度・土または日、約1年かけて実施、途中からでも可)

- 4月 雪上訓練(4/18予定)
 - 5月 唐松岳(5/8予定)
 - 6月 爺ヶ岳
 - 7月 岩入門(ロープワーク)
- ※ロープなどの共同装備は、大町労山で用意します。

当初から年間計画・日程は決めないで、
メンバー登録していただきます。
2ヶ月程度前には日程と内容を決めて連絡します。



申し込み・問い合わせは 090-2113-9958 鈴木 均

メール qyf06372@nifty.com (大町勤労登山の会)

大町労山には、どなたでも入会できます。
会費 月800円

当面の山行予定など

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
角田山						県連 理事会
10	11	12	13	14	15	16
県連雪 訓		拡大 役員会				アルパ ルート 開通
17	18	19	20	21	22	23
県連救護 講習会						
24	25	26	27	28	29	30
		例会			小日向 山予定	

22日頃 燕・蝶・常念ヶトオープン

守門・谷川岳

29～爺ヶ岳南尾根予定

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
→		鷹松岳 予定		→		
8	9	10	11	12	13	14
燕または 蝶ヶ岳		拡大 役員会				鎌の 峰
15	16	17	18	19	20	21
県連交 流登山						佐渡の 山
22	23	24	25	26	27	28
佐渡の 山		例会				
29	30					

登山教室開講

いま、上映中です。



2016年度 全国・北信越・長野県連活動計画(案)

内容	開催予定場所	開催日
第2回理事会		4月9日(土)
第92回登山学校〔教育部〕	雪上訓練講習会 白馬五竜 Ski	4月10日(日)
山岳救護講習会	JPTEC 救急法講習会	4月17日(日)
春の交流登山〔組織部〕	東信地区担当	5月15日(日)
県下一斉清掃登山		6月の第1、2週末
第3回理事会	未定(各会三役担当者会議会場)	6月18日
各会三役・各分野担当者会議	未定	6月19日
第93回登山教室	クライミング技術講習会	6月
組織レスキュー講習会	廻り目平	6月25～26日(土日)
第94回登山学校〔教育部〕	沢登り技術講習会	7月
山岳総合研修会	佐久創造館	7月
自然保護学習講座		未定
秋の交流登山〔組織部〕		9月11日(日)
県連役員各部長・委員長会議		7月
第4回理事会		10月
第5回理事会		12月
雪崩組織レスキュー		1月21～22日
冬の交流登山〔組織部〕	スノーハイク	1月29日(日)
第95回登山学校		2月
第6回理事会		2月
第7回理事会		3月4日(土)
第52回定期総会		3月5日(日)

2016年度の全国的な規模の集会・会議予定

第32期上期(2016年度)

機関会議・集会	
第32回総会	2月20日～21日(東京・晴海グランドホテル)
全国女性担当者会議	6月25日～26日(東京・全国連盟事務所)
全国遭難対策担当者会議	7月2日～3日(東京・全国連盟事務所)
行事・集会	
第30回全国雪崩講習会	2月11日～14日(中央アルプス・千畳敷)
東日本女性登山交流集会	10月9日～10日(高山)
全国ハイキング交流集会	
労山自然保護集会	(福島)
全国登山研究集会	11月上旬(首都圏)
国際会議・集会	
アジア山岳連盟(UAAA)理事国会議	5月～6月(中国・成都)
アジア山岳連盟(UAAA)年次総会	11月(ネパール・カトマンズ)
友好山岳団体との共同の集会・会議等	
全国山岳遭難対策協議会	7月(東京・文部科学省)
第1回「山の日」記念全国大会	8月10日～11日(長野県松本市・上高地)